

親子で元気になる「個人懇談会の持ち方」「通知表の所見の書き方」

1. こんなことを言われないようにする

「あゆみ（通知表）なんかいらん！」

- ・ どうせ1（がんばろう）ばかりや、いつも同じなんや、そんなんいらんのや。
- ・ オレは終業式が嫌いや、あゆみ（通知表）なんか見たくないんや。

「個人懇談会は行きたくないんです！」

- ・ 行ってもどうせ同じこと言われるもん、いつも悪いことばかり・・・。
- ・ 「発表しませんね」って言われたって私は何もできないよ、それは先生の仕事でしょ。
- ・ 個人懇談会の晩は、親子けんかが始まります。

2. こんな懇談会に こんな通知表（あゆみ）に

- ・ 懇談会に行けば「うちの子もなかなかもんやね」って元気が出る。
- ・ 通知表（あゆみ）を見て、「今度もがんばろうかな」って希望がもてる。

3. 通知表（あゆみ）の所見は、子どもの未来へ贈る言葉。

- ・ 評定と所見、どちらに時間がかかるの？ 所見は時間がかかるけどしっかり書きたい。
- ・ 子どもは、所見を一生懸命に読んでいる。
- ・ 大きくなってから所見を読んで「オレもなかなかやったんや、またがんばろう」って希望をもってくれたら最高の所見である。心に響く所見の言葉は「未来への応援団」

4. 個人懇談会でも所見でも・・・具体的なことがポイント。

- ・ 抽象的な表現は心に残らない。具体的なことを話す、具体的なことを書く。
- ・ だから、日常の具体的な出来事を記録しているか、していないかで決まる
- ・ 記録をとる先生に、メモをとる先生に！ すると先生も懇談会がおもしろくなる、所見を書きたくなる。記録ノートをつくること。

5. 具体的なことをどう書くか？ どうしゃべるか？ その後に先生の願いや想いを・・・

☆「明るくて元気でした」→→→「いつも運動場に一番に出て遊んでいました」→「その影響でクラスの仲間も全員外に出るようになり、みんなで仲よく遊べるようになりました。このクラスが明るくて元気なのは彼のおかげです。ありがとう松山君。」

☆「いつも優しい行動でした」→「落ち込んでいる友だちがいれば、いつもそばに行き、励ましていました」→「そんな彼女の行動はクラスの仲間からも信頼されています。」

☆「学習もよく頑張っていました」→「自主学習では算数の分数の足し算を何度も何度も練習していました」→「その努力は来学期に成果として必ず出てくるはずですよ。ガンバレ田村さん。」

☆「運動会で係の仕事をしっかりやっていました」→「運動会では、会場係として全体を見渡し、みんなが気持ちよくできるように常に声掛けをして活動していました。また後片付けでは、1年生の子の机をもってやるなど、優しく低学年の子にも関わって

いた福山君でした。」

6. 悪い事は書くのか？ 書かないのか？

- ・ 所見には書かない方がいい。文字で残るということは、気持ちのいいものではない。
- ・ 所見には、いい事と悪い事を両方書くという考えもあるが、やはり悪いことは気持ちはよくない。悪い事は懇談会で顔を合わせた上で、言葉で言うといい。
- ・ 懇談では、いい事をたくさん言えば、悪い事も素直に聞き入れてもらえる。
- ・ ただ、しっかり親に聞いてほしいことは、懇談会でしっかり言うことも大切。「九九の練習を必ず聞いてやってください。私も学校でがんばるので、お母さんも家で頑張ってくださいね。一緒にあの子のためにがんばりましょう。」とか……。

7. 所見を書いた後は、必ず学年の先生や先輩や同僚にも読んでもらう、読ませてもらう。

- ・ 先輩に読んでもらう、先輩の文を読ませてもらう、これが大切。
- ・ 言葉の使い方、字の間違い等、しっかり勉強する。

8. 懇談会の時間と場の設定

- ・ 個人懇談会の時間は、守る！ 保護者が待つ時間が長いとしんどい！
そのために →→誰が〇時〇分から何〇時何〇分までを一覧表にして配る。掲示する。
時間はつめないで、所々余裕が出来るように空けておく。
- ・ 懇談の席は、入口から遠くの温かい窓側にして、机は4つにする。2つだと真っ正面で向きあうことになるが、これはあまりよくないこと。
- ・ 廊下で待つ人のことを考えて、何かの掲示物や作品や読み物を用意しておく。椅子にはもちろん座布団（冬は絶対！）寒さ対策はしておきたい。

9. その他いろいろ・・・

- ・ 字の間違いは、御法度！ 辞書をそばに置いてきっちりと。
- ・ たとえ字が汚くても、パソコン文字よりは心がこもって見える。大事なものはていねいに書くことである。パソコン文字はきれいで便利だけどダメ。
- ・ 所見の枠にいっぱい書くこと。余らすのは絶対によくない。私の子は書くことないのか、なんて思わずから余らすのはダメ！むしろ枠からはみ出すぐらい書くことはいい。
- ・ 所見欄に「懇談でお話したとおりです」のハンコが押してあった学校があった。
これは最低！ ハンコを押すくらいなら所見欄をなくす方がまだまし。

10. 通知表（あゆみ）は、大人になってからも「生きる」

- ・ 5年生の時の体育の「5」は、今も私の希望です。（体育が苦手だったSさん）
- ・ 6年の時の「H君は本当に優しい子です」を読み返し、俺は優しさを取り戻します。
（いろいろ問題行動をおこしたH君）

懇談会のお土産 こんなお土産があると次の懇談会も参加したくなるし、そんな先生を信頼する

☆懇談会に残ってくれたお母さんお父さんには、特別プレゼントをあげましょう。

残った親一人ひとりに、15秒ずつその子の「いいところ」を担当から言ってあげましょう。言われた親はみんなうれしい気持ちになります。次の懇談会でもその次でも言ってあげましょう。すると懇談会に来ることが楽しみになるし、それを他のお母さんたちにも言うので、懇談会の人数はだんだん増えていきます。→一人ひとりの「いいこと見つけ」

（※そのためには担任はクラス全員の「いいところ」を準備することになります。来ない子の話はその日は無駄になりますが、家庭訪問や個人懇談や通知表のいい材料になります。それに全員の準備をするために担任はよりよく子どもを観察することになり、結果として、担任の子ども理解が驚くほど深くなります。→子ども理解に役立つ）

懇談会の最後に、先生から

「最近の子どもたちの様子を話したいと思います。一人一人お話ししますね」
と参加している保護者の子どもの話を順番にしてい（15秒ぐらいずつ）

白井君・・・運動会の後片づけの時、最後の最後まで体育倉庫で整理をしてくれました
岡本君・・・運動会のあと、いすをうまく運べない1年生の子を見つけると、なんと教室まで一緒に運んであげていたんです、そしてそのあと運動場に走って帰ってきたんです。

加藤さん・・・先週の給食の時間のあと、当番が給食室に返し忘れていた食器に、気づき私が言わないのに、自分でさっさと持っていってくれました。

平野さん・・・算数の時間、中村さんが困っているのにすぐに気づき、横について、ていねいに教えていました。中村さんはすごくうれしそうでした。後で私が聞くと「先生よりよくわかる」だって。

三木さん・・・廊下を歩いている時、「そうきん掛け」から落ちていたそうきんを、さりげなく拾い、かけ直しているのを見ましたよ。小さなことですがなかなかできないことです。すごいです。

石川さん・・・運動会に向けての放課後、石川さんチームは自分たちで練習していたのですが、石川さんは、走るのが苦手な友達の横と一緒に走って「手をもっとふれー」とか「そこで声を出してバトンパス！」などと言っていました、一緒に走るなんてびっくりしました。いいチームをつくってくれました。

岡本君・・・昨日の掃除の時間、自分たちのトイレの掃除が終わったら、班の仲間を誘い、すぐに教室に行って掃除を手伝ってくれました。あっと間に教室掃除は終わりました。いい仲間たちです。

・・・という調子で、参加者全員の子どもの話をして、お母さんお父さんに「温かい貯金」をおみやげに持って帰ってもらう。

最後にもう一度歌いましょう。子どもたちの大好きな歌です。

♪ビリーブ♪

今日はありがとうございました。さようなら。

どの子も 子どもは星

どの子も 子どもは星
みんなそれぞれが それぞれの光をいだいて
まばたきしている
ぼくの光を見てくださいと まばたきしている
わたしの光も見てくださいと まばたきしている
光を 見てやろう
まばたきに 応えてやろう
光を見てももらえないと 子どもの星は 光を消す
まばたきをやめる
まばたきをやめてしまおうと しはじめている星はないか
光を消してしまおうとしている 星はないか
光を 見てやろう
まばたきに 応えてやろう
そして
やんちゃ者からは やんちゃ者の光
おとなしい子からは おとなしい子の光
気のはやい子からは 気のはやい子の光
ゆっくりやさんからは ゆっくりやさんの光
男の子からは 男の子の光
女の子からは 女の子の光
天いつぱいに
子どもの星を
かがやかせよう

(東井 義雄)